

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2017-128295

(P2017-128295A)

(43) 公開日 平成29年7月27日 (2017.7.27)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
B 6 0 N 2/44 (2006.01)	B 6 0 N 2/44	3 B 0 8 7
B 6 0 N 2/22 (2006.01)	B 6 0 N 2/22	

審査請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 13 頁)

(21) 出願番号	特願2016-10590 (P2016-10590)	(71) 出願人	000241500
(22) 出願日	平成28年1月22日 (2016.1.22)		トヨタ紡織株式会社
			愛知県刈谷市豊田町1丁目1番地
		(71) 出願人	000003207
			トヨタ自動車株式会社
			愛知県豊田市トヨタ町1番地
		(74) 代理人	110000394
			特許業務法人岡田国際特許事務所
		(72) 発明者	藤原 弘稔
			愛知県刈谷市豊田町1丁目1番地 トヨタ
			紡織株式会社内
		(72) 発明者	小笠原 拓哉
			愛知県刈谷市豊田町1丁目1番地 トヨタ
			紡織株式会社内

最終頁に続く

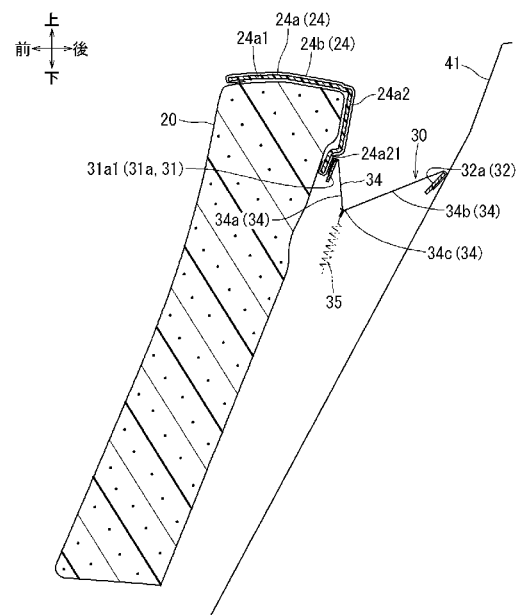
(54) 【発明の名称】 乗物用シート

(57) 【要約】

【課題】乗物用シートの構成部品が乗物ボデーに対して離隔したり近接したりする動きをする乗物用シートにおいて、見栄えと取付け作業性の両立を図った隙隠しカバーを備えた乗物用シートを提供する。

【解決手段】隙隠しカバー30は、シートバック20とパーテシヨントリム41との間に配置されてシートバック20がパーテシヨントリム41に対して離隔した状態において展開して前記隙間を覆い隠しシートバック20がパーテシヨントリム41に対して近接した状態において折畳まれるカバー部材34を有する。カバー部材34のシートバック20側端部は取付部材31を介して取付けられ、カバー部材34のパーテシヨントリム41側端部は摺動部材32を介してパーテシヨントリム41に摺動可能に配設される。取付部材31に対して摺動部材32をカバー部材34が展開する方向に付勢する付勢部材を有する。

【選択図】 図4



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

乗物用シートであって、

該乗物用シートはその構成部品が乗物ボデーに対して変位可能に形成されて前記構成部品と乗物ボデーとの間に形成される隙間を覆い隠す隙隠しカバーを備えており、

該隙隠しカバーは、前記構成部品と前記乗物ボデーとの間に配置されて前記構成部品が前記乗物ボデーに対して離隔した状態において展開して前記隙間を覆い隠し前記構成部品が前記乗物ボデーに対して近接した状態において折畳まれるカバー部材と、該カバー部材の前記構成部品側端部又は前記乗物ボデー側端部に連結され前記構成部品又は前記乗物ボデーに対して摺動不能に取付けられる取付部材と、

前記カバー部材の前記乗物ボデー側端部又は前記構成部品側端部に連結され前記構成部品の前記変位に応じて前記乗物ボデー又は前記構成部品に対して摺動可能に配設される摺動部材と、

前記取付部材に対して前記摺動部材を前記カバー部材が展開する方向に離隔するように付勢する付勢部材と、を有する乗物用シート。

【請求項 2】

請求項 1 において、前記カバー部材は複数の布帛状部材が前記変位の方向に対して略垂直な方向に延びる連結部で一体化されたものである乗物用シート。

【請求項 3】

請求項 2 において、前記カバー部材は、2 枚の布帛状部材が 1 つの連結部で一体化されたものである乗物用シート。

【請求項 4】

請求項 3 において、前記連結部を前記カバー部材の外部から見えない側に牽引付勢する牽引部材を備えている乗物用シート。

【請求項 5】

請求項 1 ないし請求項 4 のいずれか 1 項において、前記構成部品は前記乗物ボデーに対して傾動可能なシートバックであって、前記隙隠しカバーは前記シートバックの上部と前記乗物ボデーとの間に形成される隙間を覆い隠すものであり、前記取付部材と前記摺動部材とはそれぞれ下方に開口した略逆 U 字形状に形成され、前記取付部材と前記摺動部材とはそれぞれ略逆 U 字形状の開口側端部に配設されたヒンジ結合部によって回転可能に連結され、前記取付部材と前記摺動部材との間に前記付勢部材が配設されている乗物用シート。

【請求項 6】

請求項 5 において、前記カバー部材は、その端部が前記取付部材の上部の全域と側部の略全域及び前記摺動部材の上部の全域と側部の略全域に連結されている乗物用シート。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、乗物用シートに関する。

【背景技術】

【0002】

乗物ボデーに取付けられた乗物用シートの構成部品である乗物用シート部品が、乗物ボデーに対して離隔したり近接したりする動きをする場合、乗物用シート部品と乗物ボデーとの間に形成される隙間を外部から見えないように覆い隠す構造が知られている。図 8 に示す従来の自動車用リアシートのシートバック 100 においては、車室と荷室を隔てるパーテーションパネル 110 とシートバック 100 の上部との隙を覆い隠す隙隠しカバー 120 が取付けられている。詳しくは、シートバック 100 は、自動車ボデーに対して前後方向にリクライニング動作可能に取付けられている。実線で示すシートバック 100 の傾き

10

20

30

40

50

角度が標準位置にある場合において、隙隠しカバー１２０の前端部は、プレート１２１を介してクリップ１２２によってシートバック１００の上部に固定されている。隙隠しカバー１２０の後端部は、所定のたるみを有してプレート１２１を介してクリップ１２２によってパーティションパネル１１０に固定されている。そして、二点鎖線で示すように、シートバック１００を標準位置から前傾させると隙隠しカバー１２０はシートバック１００の上部とパーティションパネル１１０との間に展開される。また、図示はしないがシートバック１００を標準位置から後傾させてその後面をパーティションパネル１１０に当接させたとき、隙隠しカバー１２０はシートバック１００とパーティションパネル１１０との間に折畳まれる。これによって、シートバック１００の上部とパーティションパネル１１０との間に形成される隙間下方内部が外部から見えなように隙隠しカバー１２０で覆い隠されるようになっている。また、特許文献１には、シートクッションとフロアとの間で形成される隙間を覆い隠す類似の技術が開示されている。

10

【先行技術文献】

【特許文献】

【０００３】

【特許文献１】特開２０１４－９１３７１号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【０００４】

上述の従来技術においては、隙隠しカバー１２０の端部をシートバック１００とパーティションパネル１１０の双方に固定しなければならない。見栄えよく取付けようと思うと、外部から見えにくい部分に固定箇所を配置する必要があるため取付け作業性が悪くなり、取付け作業性を優先すれば見栄えの悪化を招いて、見栄えと取付け作業性の両立が難しいという問題があった。

20

【０００５】

このような要請に鑑み本発明の課題は、乗物用シートの構成部品が乗物ボデーに対して離隔したり近接したりする動きをする乗物用シートにおいて、見栄えと取付け作業性の両立を図った隙隠しカバーを備えた乗物用シートを提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【０００６】

本発明の第１発明は、乗物用シートであって、該乗物用シートはその構成部品が乗物ボデーに対して変位可能に形成されて前記構成部品と乗物ボデーとの間に形成される隙間を覆い隠す隙隠しカバーを備えており、該隙隠しカバーは、前記構成部品と前記乗物ボデーとの間に配置されて前記構成部品が前記乗物ボデーに対して離隔した状態において展開して前記隙間を覆い隠し前記構成部品が前記乗物ボデーに対して近接した状態において折畳まれるカバー部材と、該カバー部材の前記構成部品側端部又は前記乗物ボデー側端部に連結され前記構成部品又は前記乗物ボデーに対して摺動不能に取付けられる取付部材と、前記カバー部材の前記乗物ボデー側端部又は前記構成部品側端部に連結され前記構成部品の前記変位に応じて前記乗物ボデー又は前記構成部品に対して摺動可能に配設される摺動部材と、前記取付部材に対して前記摺動部材を前記カバー部材が展開する方向に離隔するように付勢する付勢部材と、を有することを特徴とする。

30

40

【０００７】

第１発明によれば、隙隠しカバーのカバー部材は構成部品と乗物ボデーの間に取付部材と摺動部材の間に配設された付勢部材によって常に展開方向への付勢を受けているので隙間の大小にかかわらず隙間を覆って隙隠しが可能となり見栄えがよい。具体的には、構成部品が乗物ボデーに対して変位するとき、カバー部材は取付部材を介して取付けられた端部に対し、摺動部材に連結された端部が乗物ボデー又は構成部品に沿って摺動することによって常に構成部品と乗物ボデーとの間に形成される隙を覆って隠すことができる。また、隙隠しカバーの乗物ボデーへの取付けは、取付部材を構成部品又は乗物ボデーに取付けるだけで完了し、摺動部材は乗物ボデー又は構成部品に当接させて配置するだけでよいの

50

で取付け作業性がよい。これによって、見栄えと取付け作業性の両立を図った隙隠しカバーを備えた乗物用シートが提供可能となる。なお、「乗物ボデー」には乗物ボデーに取付けられたトリム部材等他の部品が取付けられた状態も含まれるものとする。

【0008】

本発明の第2発明は、上記第1発明において、前記カバー部材は複数の布帛状部材が前記変位の方向に対して略垂直な方向に延びる連結部で一体化されたものであることを特徴とする。

【0009】

第2発明によれば、カバー部材は複数の布帛状部材が構成部品の変位の方向に対して垂直な方向に延びる連結部で一体化されたものであるので、隙が狭まったときカバー部材は連結部を起点として折畳まれる。これによって、カバー部材はジャバラ状に折畳まれ不均一な折れ線が発生しにくくなるため見栄えが向上する。

【0010】

本発明の第3発明は、上記第2発明において、前記カバー部材は、2枚の布帛状部材が1つの連結部で一体化されたものであることを特徴とする。

【0011】

第3発明によれば、カバー部材は2枚の布帛状部材が1つの連結部を起点として折畳まれるので、さらに簡潔で見栄えがよいものとなる。

【0012】

本発明の第4発明は、上記第3発明において、前記連結部を前記カバー部材の外部から見えない側に牽引付勢する牽引部材を備えていることを特徴とする。

【0013】

第4発明によれば、カバー部材は2枚の布帛状部材が1つの連結部を起点として確実にカバー部材の外部から見えない側に折れ線を有して折畳まれるので、簡潔な見栄えのよさが安定して再現される。

【0014】

本発明の第5発明は、上記第1発明から上記第4発明のいずれかにおいて、前記構成部品は前記乗物ボデーに対して傾動可能なシートバックであって、前記隙隠しカバーは前記シートバックの上部と前記乗物ボデーとの間に形成される隙間を覆い隠すものであり、前記取付部材と前記摺動部材とはそれぞれ下方に開口した略逆U字形状に形成され、前記取付部材と前記摺動部材とはそれぞれ略逆U字形状の開口側端部に配設されたヒンジ結合部によって回転可能に連結され、前記取付部材と前記摺動部材との間に前記付勢部材が配設されていることを特徴とする。

【0015】

第5発明によれば、シートバックの上部又は乗物ボデーに取付けられた取付部材に対し摺動部材はカバー部材を展開する方向に付勢されているので、シートバックの傾動に応じて摺動部材が乗物ボデー又はシートバックの上部の表面に沿って摺動する。これによって、シートバックの上部と乗物ボデーとの間に形成される隙間はシートバックの傾き角度が変化してもカバー部材によって覆い隠され内部構造が見えないので見栄えがよい。取付部材と摺動部材とはそれぞれ略逆U字形状の開口側端部に配設されたヒンジ結合部によって回転可能に連結されているので安定してカバー部材に展開方向の力を印加することができる。また、乗物ボデーにシートバックを取付けるときシートバックの上部又は乗物ボデーに隙隠しカバーの取付部材を取付けた状態で摺動部材を乗物ボデー又はシートバックの上部に押付けて取付ければよいので取付け作業性がよい。

【0016】

本発明の第6発明は、上記第5発明において、前記カバー部材は、その端部が前記取付部材の上部の全域と側部の略全域及び前記摺動部材の上部の全域と側部の略全域に連結されていることを特徴とする。

【0017】

第6発明によれば、シートバックの上部と乗物ボデーの間に形成される隙を上部全域及

10

20

30

40

50

び左右両サイド部のほぼ全域にわたって覆い隠すことができるのでさらに見栄えが向上する。

【図面の簡単な説明】

【0018】

【図1】本発明の一実施形態の自動車用リアシートのシートバック上部を斜め前方から見た斜視図である。

【図2】上記実施形態の自動車用リアシートのシートバック上部を斜め後方から見た斜視図である。

【図3】上記実施形態の自動車用リアシートのシートバック上部のバックボードに取付部材と摺動部材を取付けた状態を示す斜め後方から見た斜視図である。カバー部材は省略している。

【図4】図1のI V - I V 線で切断して示す断面図である。シートバックの傾き角度が標準位置にある状態を示す。

【図5】図4において、シートバックの後傾角度が最も小さい状態を示す断面図である。

【図6】図4において、シートバックの後傾角度が最も大きい状態を示す断面図である。

【図7】取付部材と摺動部材の分解斜視図である。

【図8】従来の隙隠しカバーの取付け構造を示す図4に対応する断面図である。

【発明を実施するための形態】

【0019】

図1～図7は、本発明の一実施形態を示す。この実施形態は、自動車用リアシートに本発明を適用した例を示す。各図中、矢印により自動車用リアシートを自動車に取付けたときの各方向を示している。以下の説明において、方向に関する記述は、この方向を基準として行うものとする。本実施形態の自動車用リアシート1は、着座部となるシートクッション10と、背凭れとなるシートバック20と、シートバック20の上部後面に取付けられた隙隠しカバー30と、を備えている。シートバック20の上部にはヘッドレストが取付けられるが、本発明に直接の関係がないため省略している。ここで、自動車用リアシート1が、特許請求の範囲の「乗物用シート」に相当する。

【0020】

図1に示すように、シートクッション10は、骨格を成すクッションフレーム11と、クッション材であるクッションパッド12と、表皮材であるクッションカバー13と、を備えている。クッションフレーム11は、自動車ボデーに対し前後方向に移動可能にスライドレール（図示せず）を介して配設されている。シートバック20は、骨格を成すバックフレーム21と、クッション材であるバックパッド22と、表皮材であるバックカバー23と、を備えている。バックフレーム21は、リンク機構（図示せず）を介してクッションフレーム11に連結されており、クッションフレーム11を後方に移動するとバックフレーム21が前傾し、クッションフレーム11を前方に移動するとバックフレーム21が後傾するように構成されている。この機構は、特開2010-246599号公報に開示されるものと同等で、公知の構成のものであるので詳しい説明を省略する。ここで、シートバック20が、特許請求の範囲の「構成部品」に相当する。

【0021】

図1～図4に示すように、シートバック20の上部にはバックボード24が取付けられている。バックボード24は、樹脂成形品の芯材24aの外観表面に装飾表皮材24bを貼着したものである。芯材24aの材料としては、例えば、短繊維入りのポリプロピレン樹脂等の繊維強化熱可塑性樹脂や繊維を含まない熱可塑性樹脂単品などが用いられるがこれらに限らない。また、装飾表皮材24bとしては、例えば、ファブリックや合成皮革、本革等が用いられるがこれらに限らない。芯材24aは、シートバック20の上面部を覆う芯材上部24a1と、シートバック20の後面部の上部を覆う芯材後部24a2と、シートバック20の右側面部の上部を覆う芯材右部24a3と、シートバック20の左側面部の下部から上部を覆う芯材左部24a4と、を有する。装飾表皮材24bは、芯材24aの外観表面全体を覆って端末が芯材24aの裏側に巻込まれた状態で芯材24aに貼着

されている。芯材後部 2 4 a 2 は、その下端部が後方から見て略逆 U 字状に形成されるとともに、図 4 に示すように、下端部から所定の寸法部分が芯材後部 2 4 a 2 の一般面部より前方にオフセットした段部 2 4 a 2 1 を有する。段部 2 4 a 2 1 は、芯材後部 2 4 a 2 の下端部に沿って帯状に形成され、後述する隙隠しカバー 3 0 の取付部材 3 1 を取付けるための部分である。なお、段部 2 4 a 2 1 には後述する取付部材 3 1 のプレート部 3 1 a のクリップ孔 3 1 a 4 に対応した孔が設けられている。

【0022】

図 3 及び図 7 に示すように、隙隠しカバー 3 0 の取付部材 3 1 は、後方から見て略逆 U 字状の金属製の板金部品であり、プレート部 3 1 a と、プレート部 3 1 a の略逆 U 字の開口側の右下端部に配設された右立壁部 3 1 b R と、左下端部に配設された左立壁部 3 1 b L と、を有する。

10

【0023】

プレート部 3 1 a は、金属製の板材を芯材 2 4 a の下端部の段部 2 4 a 2 1 に外接して芯材 2 4 a の形状に沿うように後方から見て略逆 U 字状の外形でその幅が段部 2 4 a 2 1 の幅とほぼ同等の長さの帯状に形成されている。プレート部 3 1 a は、左右方向に延びるプレート上部 3 1 a 1 と、プレート上部 3 1 a 1 の右端部から下方に向かって延びる右プレート側部 3 1 a 2 と、プレート上部 3 1 a 1 の左端部から下方に向かって延びる左プレート側部 3 1 a 3 と、を有する。プレート上部 3 1 a 1 の前面側にはバックボード 2 4 に固定するとき位置合わせするための位置合わせピン 3 1 a 1 1 が 2 本設けられている。また、プレート部 3 1 a には、バックボード 2 4 に対してクリップで固定する際クリップを通すクリップ孔 3 1 a 4 が複数個設けられている。

20

【0024】

右立壁部 3 1 b R は、プレート部 3 1 a の右プレート側部 3 1 a 2 の下左側から右プレート側部 3 1 a 2 に垂直に後方に向かって延びるように配設された部分である。右立壁部 3 1 b R の下端部側の右側面には右方に向かって垂直に延びる回転軸 3 1 b R 1 が配設されている。左立壁部 3 1 b L は、プレート部 3 1 a の左プレート側部 3 1 a 3 の下右側から左プレート側部 3 1 a 3 に垂直に後方に向かって延びるように配設された部分である。左立壁部 3 1 b L の下端部側の左側面には左方に向かって垂直に延びる回転軸 3 1 b L 1 が配設されている。回転軸 3 1 b R 1 と回転軸 3 1 b L 1 は同一軸線上になるように配置されている。

30

【0025】

図 3 及び図 7 に示すように、隙隠しカバー 3 0 の摺動部材 3 2 は、後方から見て略逆 U 字状の樹脂製のプレート部材 3 2 a を有する。また、摺動部材 3 2 は、プレート部材 3 2 a の略逆 U 字の開口側の右下端部に配設された金属製の右ブラケット 3 2 b R と、プレート部材 3 2 a の略逆 U 字の開口側の左下端部に配設された金属製の左ブラケット 3 2 b L と、を有する。

【0026】

プレート部材 3 2 a は、ポリプロピレン等の樹脂製の板材を後方に向かって凸状となるように湾曲させた形状でその幅が取付部材 3 1 のプレート部 3 1 a の幅とほぼ等しい帯状に形成されている。プレート部材 3 2 a の湾曲形状は、後述するパーテシヨントリム 4 1 の上部の水平方向断面形状に沿う形状である。プレート部材 3 2 a の略逆 U 字の開口側と反対側の右端部には、後述するコイルばね 3 3 R の直線状部 3 3 R 1 を係止する係止部 3 2 a 1 が設けられている。また、プレート部材 3 2 a の略逆 U 字の開口側と反対側の左端部にも、後述するコイルばね 3 3 L の直線状部 3 3 L 1 を係止する係止部 3 2 a 1 が設けられている。

40

【0027】

右ブラケット 3 2 b R は、左右方向に垂直で上下方向に延びる立板部 3 2 b R 2 の右側上部に前右方向に向かって延びる取付部 3 2 b R 1 を設けた板金部品である。立板部 3 2 b R 2 には回転軸 3 1 b R 1 を軸支する軸孔 3 2 b R 3 が設けられており、回転軸 3 1 b R 1 の右端部を軸孔 3 2 b R 3 に通して右立壁部 3 1 b R に対して右ブラケット 3 2 b R

50

を回転可能に組付けることができる。このとき立板部 3 2 b R 2 は右立壁部 3 1 b R に対向して配置され取付部 3 2 b R 1 はプレート部材 3 2 a の右下部の前面に当接するように立板部 3 2 b R 2 に対する取付部 3 2 b R 1 の取付け角度が決められている。左ブラケット 3 2 b L は、左右方向に垂直で上下方向に延びる立板部 3 2 b L 2 の左側上部に前左方向に向かって延びる取付部 3 2 b L 1 を設けた板金部品である。立板部 3 2 b L 2 には回転軸 3 1 b L 1 を軸支する軸孔 3 2 b L 3 が設けられており、回転軸 3 1 b L 1 の左端部を軸孔 3 2 b L 3 に通して左立壁部 3 1 b L に対して左ブラケット 3 2 b L を回転可能に組付けることができる。このとき立板部 3 2 b L 2 は左立壁部 3 1 b L に対向して配置され取付部 3 2 b L 1 はプレート部材 3 2 a の左下部の前側面に当接するように立板部 3 2 b L 2 に対する取付部 3 2 b L 1 の取付け角度が決められている。立板部 3 2 b R 2 には、コイルばね 3 3 R の直線状部 3 3 R 1 の根元側を支持する支持部 3 2 b R 4 が設けられ、立板部 3 2 b L 2 にはコイルばね 3 3 L の直線状部 3 3 L 1 の根元側を支持する支持部 3 2 b L 4 が設けられている。ここで、右立壁部 3 1 b R、回転軸 3 1 b R 1、立板部 3 2 b R 2、軸孔 3 2 b R 3 及び左立壁部 3 1 b L、回転軸 3 1 b L 1、立板部 3 2 b L 2、軸孔 3 2 b L 3 が、特許請求の範囲の「ヒンジ結合部」に相当する。

【0028】

図 3 及び図 7 に示すように、隙隠しカバー 3 0 のコイルばねは、ねじりコイルばねで左右に 1 つずつ配置されており右側のコイルばね 3 3 R と左側のコイルばね 3 3 L は、シートバック 2 0 の左右方向中心面に関して鏡面对称形状に形成されている。コイルばね 3 3 R の右側端部とコイルばね 3 3 L の左側端部には、それぞれ直線状部 3 3 R 1 及び直線状部 3 3 L 1 が設けられている。また、コイルばね 3 3 R の左側端部とコイルばね 3 3 L の右側端部には、それぞれ直線状部 3 3 R 1 及び直線状部 3 3 L 1 より短い直線状部 3 3 R 2 及び直線状部 3 3 L 2 が設けられている。コイルばね 3 3 R は、回転軸 3 1 b R 1 に通されて直線状部 3 3 R 2 が取付部材 3 1 の右プレート側部 3 1 a 2 に当接された状態で直線状部 3 3 R 1 の根元部が支持部 3 2 b R 4 に支持されて先端部が摺動部材 3 2 の右側の係止部 3 2 a 1 に取付けられる。このとき、コイルばね 3 3 R は、取付部材 3 1 に対して摺動部材 3 2 を後方に離隔する方向に回転付勢する。同様に、コイルばね 3 3 L は、回転軸 3 1 b L 1 に通されて直線状部 3 3 L 2 が取付部材 3 1 の左プレート側部 3 1 a 3 に当接された状態で直線状部 3 3 L 1 の根元部が支持部 3 2 b L 4 に支持されて先端部が摺動部材 3 2 の左側の係止部 3 2 a 1 に取付けられる。このとき、コイルばね 3 3 L は、取付部材 3 1 に対して摺動部材 3 2 を後方に離隔する方向に回転付勢する。コイルばね 3 3 R とコイルばね 3 3 L が相俟って取付部材 3 1 に対して摺動部材 3 2 を前後に平行を保った状態で後方に離隔する方向に回転付勢する。ここで、コイルばね 3 3 R 及びコイルばね 3 3 L が、特許請求の範囲の「付勢部材」に相当する。

【0029】

図 7 に示すように、隙隠しカバー 3 0 のカバー部材 3 4 は、2 枚のファブリック裁断品を縫製によって一体化して略紡錘形状に形成したものである。ファブリック以外の合成皮革、本革等の外部からの視線を遮ることができる布帛状のものであってもよいし、縫製によらず溶着や接着等で一体化してもよい。前側の前カバー部材 3 4 a は、その上部及び左右の外周部を取付部材 3 1 のプレート部 3 1 a の上部及び左右の外周部から巻込んでプレート部 3 1 a のバックボード 2 4 に当接する側の面に接着で固定されている。このとき、前カバー部材 3 4 a は、しわやよたりがなくプレート部 3 1 a に取付けられるようにその外形が決められて裁断されている。具体的には、前カバー部材 3 4 a の左右の外周部は、取付部材 3 1 の回転軸 3 1 b R 1、3 1 b L 1 からプレート部 3 1 a の上端部までの長さとはほぼ等しく設定されている。後側の後カバー部材 3 4 b は、その上部及び左右の外周部を摺動部材 3 2 のプレート部材 3 2 a の上部及び左右の外周部から巻込んでプレート部材 3 2 a のパーテーショントリム 4 1 に当接する側の面に接着で固定されている。このとき、後カバー部材 3 4 b は、しわやよたりがなくプレート部材 3 2 a に取付けられるようにその外形が決められて裁断されている。具体的には、後カバー部材 3 4 b の左右の外周部は、摺動部材 3 2 の回転軸 3 1 b R 1、3 1 b L 1 からプレート部材 3 2 a の上端部までの

長さとはほぼ等しく設定されている。前カバー部材 3 4 a と後カバー部材 3 4 b を連結する縫製部 3 4 c は、取付部材 3 1 のプレート部 3 1 a と摺動部材 3 2 のプレート部材 3 2 a との間で左右方向に延びて配置される。そして、自動車用リアシート 1 が自動車ボデーに取付けられていない状態においてカバー部材 3 4 は、取付部材 3 1 と摺動部材 3 2 の間の回転付勢力により展開状態とされている。ここで、縫製部 3 4 c が、特許請求の範囲の「連結部」に相当する。

【0030】

図 1 及び図 4 に示すように、自動車用リアシート 1 の後方には車室と荷室を区画するパーティションパネルが配設され、パーティションパネルの前面側にはパーティショントリム 4 1 が取付けられている。パーティショントリム 4 1 は、樹脂成形品の芯材の外観表面に装飾表皮材を貼着したものであり、その材料構成はバックボード 2 4 と同等のものである。パーティショントリム 4 1 は、シートバック 2 0 を倒しかけたときシートバック 2 0 の後面及び左右側面の後側を覆ってカバーするように前方に向けて凹面となる形状に形成されている。図 2 及び図 4 に示すように、シートバック 2 0 を前方に向けて回転させて起立状態に近づけるとシートバック 2 0 の後面上部とパーティショントリム 4 1 の前面上部との間に側面視で略扇状の隙が形成される。この隙を覆い隠して上方及び斜め上方からシートバック 2 0 の後面下部とパーティショントリム 4 1 の前面下部が見えないようにするために隙隠しカバー 3 0 が配設される。

【0031】

図 1 ～図 7 に基づいてシートバック 2 0 の上部とパーティショントリム 4 1 の上部との間に隙隠しカバー 3 0 を配設する手順及びその作用効果について説明する。まず、隙隠しカバー 3 0 の取付部材 3 1 に対してコイルばね 3 3 R、3 3 L を介して摺動部材 3 2 を組付ける。具体的には、取付部材 3 1 の回転軸 3 1 b R 1 に右方からコイルばね 3 3 R を通し直線状部 3 3 R 2 を右プレート側部 3 1 a 2 に当接させて直線状部 3 3 R 1 を支持部 3 2 b R 4 と摺動部材 3 2 の右側の係止部 3 2 a 1 に係止する。同様に、取付部材 3 1 の回転軸 3 1 b L 1 に左方からコイルばね 3 3 L を通し直線状部 3 3 L 2 を左プレート側部 3 1 a 3 に当接させて直線状部 3 3 L 1 を支持部 3 2 b L 4 と摺動部材 3 2 の左側の係止部 3 2 a 1 に係止する。次に、予め準備したカバー部材 3 4 の前カバー部材 3 4 a の上部及び左右の外周部を取付部材 3 1 のプレート部 3 1 a の上部及び左右の外周部から巻込んでプレート部 3 1 a のバックボード 2 4 に当接する側の面に接着する。そして、後カバー部材 3 4 b の上部及び左右の外周部を摺動部材 3 2 のプレート部材 3 2 a の上部及び左右の外周部から巻込んでプレート部材 3 2 a のパーティショントリム 4 1 に当接する側の面に接着する。次に、隙隠しカバー 3 0 の取付部材 3 1 の前面をバックボード 2 4 の段部 2 4 a 2 1 の後面に当接させてクリップ孔 3 1 a 4 にクリップを通して連結する。この状態で予め準備した自動車用リアシート 1 のシートバック 2 0 の上部にバックボード 2 4 を取付けて自動車用リアシート 1 を自動車ボデーの所定位置に取付ける。このとき、隙隠しカバー 3 0 の摺動部材 3 2 をパーティショントリム 4 1 に押し当てながら取付ける。これによって、図 4 に示すように、シートバック 2 0 の傾き位置が標準位置にある場合に、隙隠しカバー 3 0 のカバー部材 3 4 は縫製部 3 4 c を起点に下方に折られ側面視略 V 字状の断面形状となる。隙隠しカバー 3 0 は、取付部材 3 1 をバックボード 2 4 を介してシートバック 2 0 に固定し、摺動部材 3 2 をパーティショントリム 4 1 に押付けてコイルばね 3 3 R、3 3 L を撓ませながら自動車用リアシート 1 を取付けるだけでよいので取付作業性がよい。

【0032】

図 4 ～図 6 を用いて、シートバック 2 0 の傾動に伴う隙隠しカバー 3 0 の動作及びその作用効果について説明する。図 4 に示すシートバック 2 0 の傾き位置が標準位置にある状態から、シートバック 2 0 を前傾させていくと隙隠しカバー 3 0 の摺動部材 3 2 はパーティショントリム 4 1 の前面部に当接しながら下方に向けて摺動し図 5 に示す状態となる。このとき、シートバック 2 0 は後傾角度が最も小さい状態となって最も前後方向に広がったシートバック 2 0 とパーティショントリム 4 1 間の隙が展開した隙隠しカバー 3 0 のカバー部材 3 4 によって覆い隠されシートバック 2 0 の下方が外部から見えなくされている。こ

10

20

30

40

50

のとき、図 5 に示す断面において、カバー部材 3 4 の取付部材 3 1 上部、縫製部 3 4 c、摺動部材 3 2 上部は、一直線状になっている。図 4 に示すシートバック 2 0 の傾き位置が標準位置にある状態から、シートバック 2 0 を後傾させていくと隙隠しカバー 3 0 の摺動部材 3 2 はパーテシントリム 4 1 の前面部に当接しながら下方に向けて摺動し図 6 に示す状態となる。このとき、シートバック 2 0 は後傾角度が最も大きい状態となって最も前後方向に狭まったシートバック 2 0 とパーテシントリム 4 1 間の隙が折畳まれた隙隠しカバー 3 0 のカバー部材 3 4 によって覆い隠されシートバック 2 0 の下方が外部から見えずにされている。このとき、図 6 に示す断面において、カバー部材 3 4 の取付部材 3 1 上部、縫製部 3 4 c、摺動部材 3 2 上部は、縫製部 3 4 c を下方とした開口の狭い略 V 字状になっている。これによって、シートバック 2 0 とパーテシントリム 4 1 間の隙はシートバック 2 0 の後傾角度が最も小さい状態から後傾角度が最も大きい状態の間に展開、折畳みされるカバー部材 3 4 によって常に覆い隠され見栄えをよくすることができる。

10

【0033】

また、カバー部材 3 4 は、前カバー部材 3 4 a と後カバー部材 3 4 b が縫製部 3 4 c で連結され一体化されたものである。シートバック 2 0 の後傾角度が増して折畳まれる際、縫製部 3 4 c を起点として前後に折畳まれ易い。これによって、不要なしわやよたりが発生しにくく簡潔で見栄えがよく隙を覆い隠すことができる。また、取付部材 3 1 と摺動部材 3 2 とはそれぞれ下方に開口した略逆 U 字形状に形成され、開口側端部同士が回転軸 3 1 b R 1、3 1 b L 1 でヒンジ結合されるとともにコイルばね 3 3 R、3 3 L で離隔方向に回転付勢されている。これによって、取付部材 3 1 と摺動部材 3 2 とは安定してカバー部材 3 4 に展開方向の力を印加することができる。さらに、前カバー部材 3 4 a の端部は取付部材 3 1 の上部の全域と側部の略全域に連結され、後カバー部材 3 4 b の端部は摺動部材 3 2 の上部の全域と側部の略全域に連結されている。これによって、シートバック 2 0 とパーテシントリム 4 1 との間に形成される隙を上部及び左右両サイド部にわたって覆い隠すことができるのでさらに見栄えが向上する。

20

【0034】

なお、図 4 ～図 6 において二点鎖線で示すように、カバー部材 3 4 の縫製部 3 4 c を回転軸 3 1 b R 1、3 1 b L 1 方向に牽引付勢するゴム、スプリング等の牽引部材 3 5 を配設することもできる。これによると、カバー部材 3 4 が縫製部 3 4 c を起点として確実にカバー部材 3 4 の外部から見えない側に折れ線を有して折畳まれるので、簡潔な見栄えのよさが安定して再現される。

30

【0035】

以上、特定の実施形態について説明したが、本発明は、それらの外観、構成に限定されず、本発明の要旨を変更しない範囲で種々の変更、追加、削除が可能である。例えば、次のようなものが挙げられる。

【0036】

1. 上記実施形態においては、取付部材 3 1 をシートバック 2 0 側に取付け摺動部材 3 2 をパーテシントリム 4 1 側に当接させたが、この逆に取付部材 3 1 をパーテシントリム 4 1 側に取付け摺動部材 3 2 をシートバック 2 0 側に当接させてもよい。

【0037】

2. 上記実施形態においては、取付部材 3 1 と摺動部材 3 2 とはそれぞれ下方に開口した略逆 U 字形状に形成され、開口側端部同士が回転軸 3 1 b R 1、3 1 b L 1 でヒンジ結合されるとともにコイルばね 3 3 R、3 3 L で離隔方向に回転付勢されるものとした。しかし、これに限らず、取付部材 3 1 と摺動部材 3 2 を棒状部材としてヒンジ結合せず双方の間に離隔方向に付勢する付勢部材を取付けるようにしてもよい。この場合、上方からのみの隙隠しとなるが、サイド部分がパーテシントリムによって隠されるような場合や、ベンチタイプのシートバックの場合のようにサイド部分が自動車ボデーによって隠される場合等には有効である。

40

【0038】

3. 上記実施形態においては、隙隠しカバー 3 0 をシートバック 2 0 とパーテシント

50

リム４１との間に配設したが、これに限らず、シートクッション１０と自動車フロアとの間等他の乗物用シート構成部品と乗物ボデーとの間に配設することもできる。

【００３９】

４．上記実施形態においては、カバー部材３４としてファブリック等の布帛状部材を使用した。これに限らず、伸縮性のある板状部材を使用することもできるし、取付部材３１と摺動部材３２が棒状部材である場合には伸縮性のない板状部材を使用することもできる。後者の場合、取付部材３１及び摺動部材３２を板状のカバー部材３４と一体化することもできる。

【００４０】

５．上記実施形態においては、本発明を自動車のシートに適用したが、飛行機、船、電

10

【符号の説明】

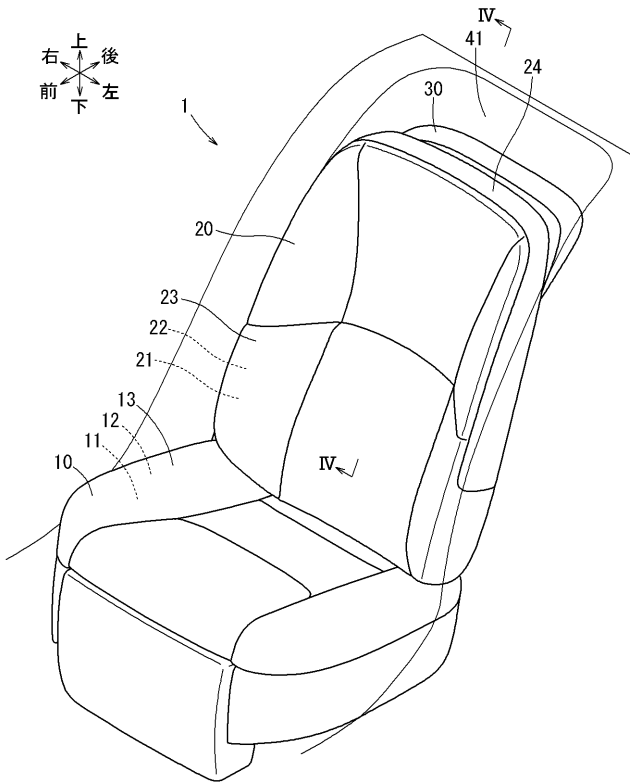
【００４１】

- １ 自動車用リアシート（乗物用シート）
- ２０ シートバック（構成部品）
- ２４ バックボード
- ３０ 隙隠しカバー
- ３１ 取付部材
- ３１ｂＲ 右立壁部（ヒンジ結合部）
- ３１ｂＬ 左立壁部（ヒンジ結合部）
- ３１ｂＲ１ 回転軸（ヒンジ結合部）
- ３１ｂＬ１ 回転軸（ヒンジ結合部）
- ３２ 摺動部材
- ３２ｂＲ２ 立板部（ヒンジ結合部）
- ３２ｂＬ２ 立板部（ヒンジ結合部）
- ３２ｂＲ３ 軸孔（ヒンジ結合部）
- ３２ｂＬ３ 軸孔（ヒンジ結合部）
- ３３Ｒ コイルばね（付勢部材）
- ３３Ｌ コイルばね（付勢部材）
- ３４ カバー部材
- ３４ｃ 縫製部（連結部）
- ３５ 牽引部材
- ４１ パーテショントリム

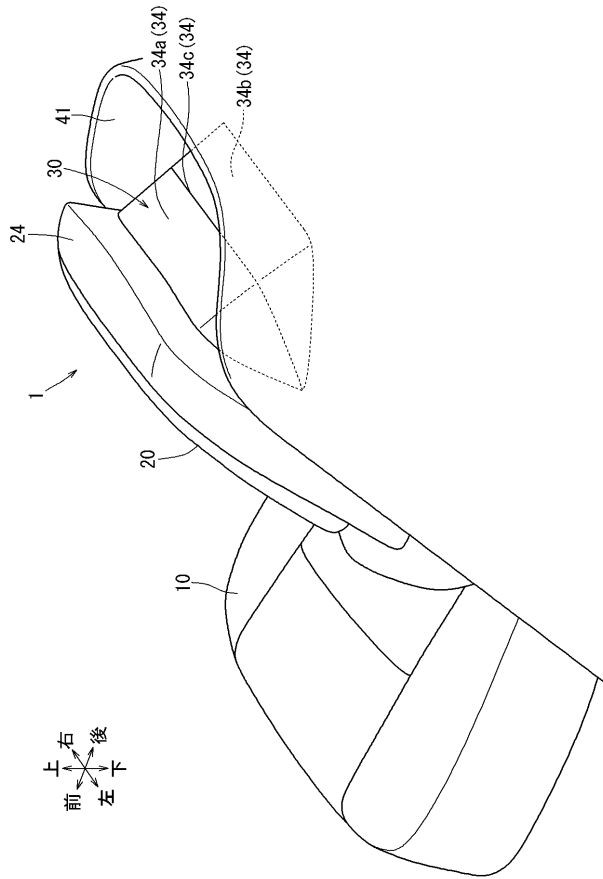
20

30

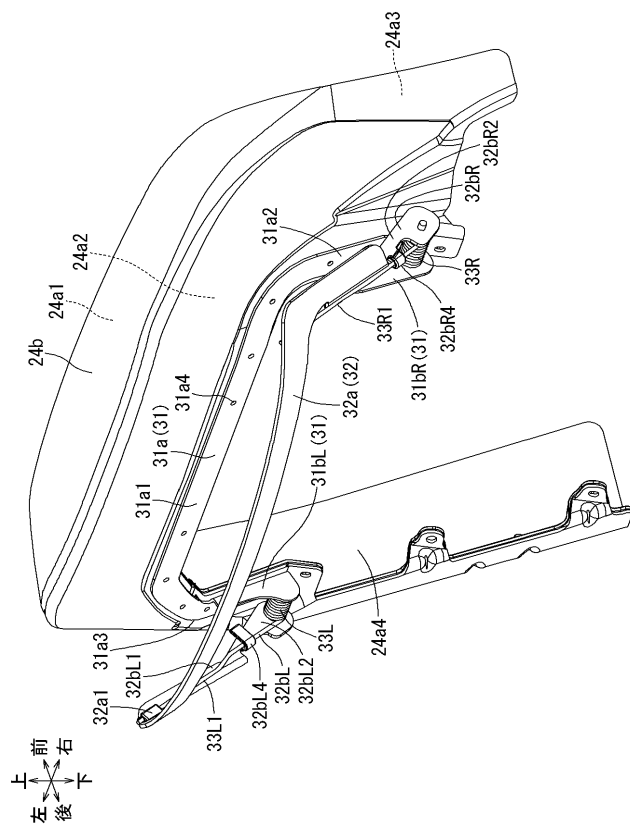
【図 1】



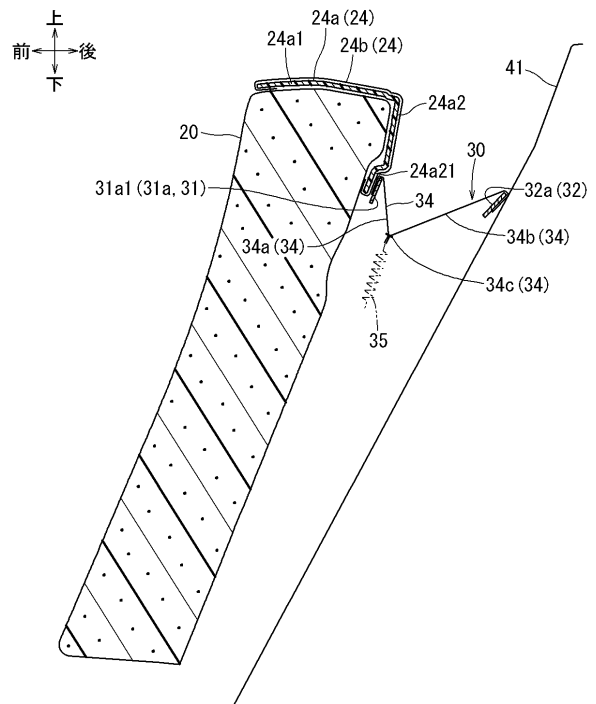
【図 2】



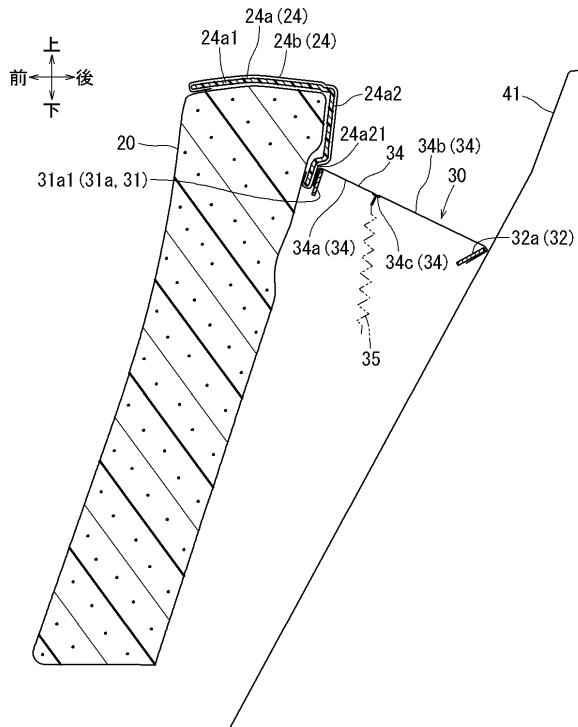
【図 3】



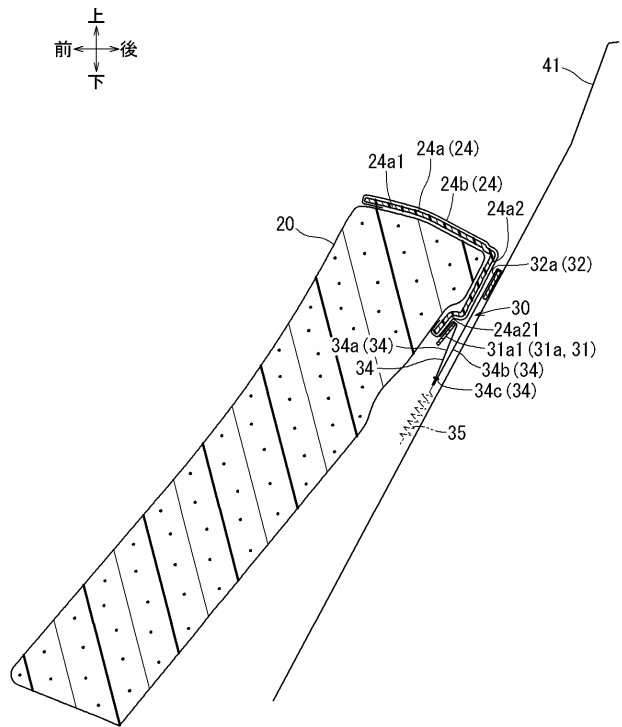
【図 4】



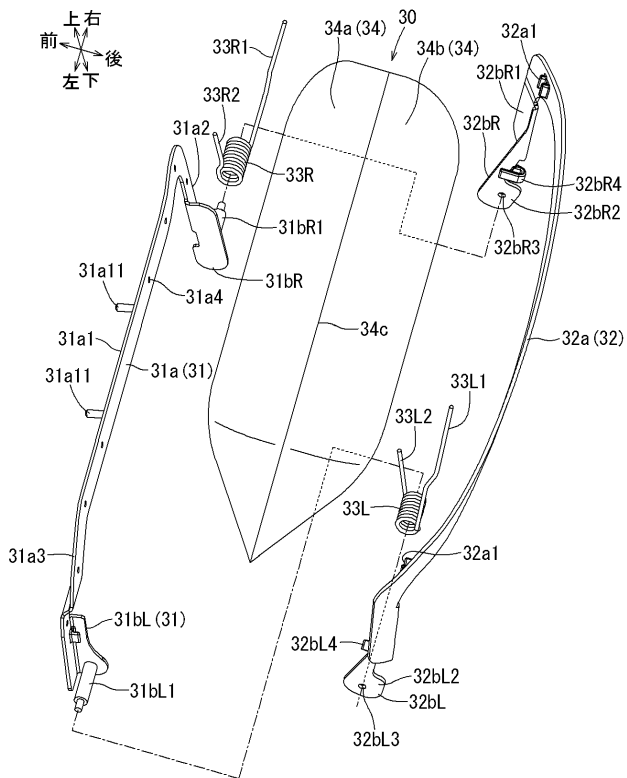
【図 5】



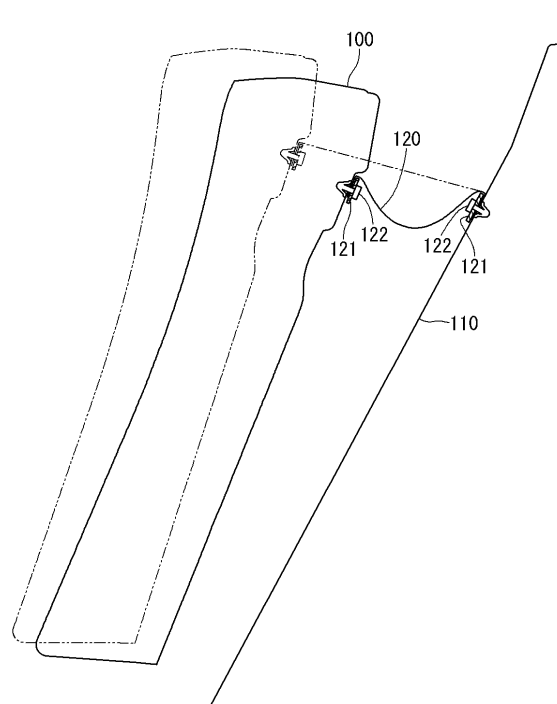
【図 6】



【図 7】



【図 8】



フロントページの続き

- (72)発明者 前田 道孝
愛知県刈谷市豊田町1丁目1番地 トヨタ紡織株式会社内
- (72)発明者 田中 俊介
愛知県豊田市トヨタ町1番地 トヨタ自動車株式会社内
- Fターム(参考) 3B087 BD03 BD17 DE10